



おばあちゃんの手

琉球王府時代、沖縄の女性たちの間では、「ハジチ」と呼ばれる入墨をする風習がありました。それは、両手の甲から腕にかけて施されるものでした（左下写真・図）。

当時の沖縄女性たちがハジチを施す理由として、①ハジチをしないと遠く（大和・唐など）に連れて行かれるから②あの世に行けないから③病気にかからないようにするため④大人の印⑤結婚した印などの意味があったようです。ハジチを施す年齢は、十七歳から三十歳までの期間に多く行われ、ハジチヤーと呼ばれる人に頼みました。

一八七九年（明治十二）、廃藩置県により、かつての琉球は日本の一県として組み込まれ、近代化が進められました。その一環として、

明治政府は、風俗改良を行い、沖縄

女性の象徴であったハジチを一八九九年（明治三十二）に禁止しました。一九〇二年（明治三十五）九月二日付けの新聞には、西原間切平良村の瀬底カマトが他人にハジチを施したとして、首里署でお灸を据えられたという記事が掲載されており、隠れてハジチをする女性たちの様子が伺えます。

西原町では、昭和五十五年から五十七年にかけて二十八名の婦人を対象にハジチ緊急調査を行い、消えゆくハジチ文化の記録・保存を行いました。

明治期から百年余経った現在、ハジチはほとんど見ることができなくなりました。みなさんのお婆ちゃんの手には、ハジチはありますか？今度、じっくり観察してみてください。

